

授業科目 (科目ID)	解剖学		担当教員 (実務経験)	飯島 治之 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 医学博士を有し解剖学講師として10年以上従事		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	人体の構造と機能を理解することは医学を学ぶための基礎である。 言語聴覚にかかわる分野だけでなく、全身を広く学び、からだ全体のつながりを知ることが目的である。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 全身の骨・関節・靭帯・筋およびその詳細について学習し、基礎的知識を身につける。 基本的な解剖学の名称と各器官の関連性、および人体に於ける3次元的な位置関係について理解する。 					
テキスト・参考図書等	(教)言語聴覚士のための解剖・生理学 著者名:小林靖 発行所:医歯薬出版 (教)ナースのための解剖生理ポケットブック 著者名:飯島治之 発行所:技術論評社					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験にて評価を行う。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	学習内容が広範に渡る上に授業進度がはやいので、しっかり復習すること。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	解剖学の概要	解剖学とは、人体の構成			
	2	運動器系	骨の構造、全身の骨格、筋の構造、全身の筋			
	3	運動器系	骨の構造、全身の骨格、筋の構造、全身の筋			
	4	循環器系	心臓と血管、リンパ系			
	5	循環器系	心臓と血管、リンパ系			
	6	呼吸器系	気道と肺、胸腔			
	7	呼吸器系	気道と肺、胸腔			
	8	消化器系	消化管と消化腺、腹腔と腹膜			
	9	泌尿生殖器系	腎臓と尿路、男子生殖器、女性生殖器			
	10	神経系 I	中枢神経系(脳と脊髄)			
	11	神経系 I	中枢神経系(脳と脊髄)			
	12	神経系 II	末梢神経系(体性神経と自律神経)			
	13	内分泌系	内分泌線とホルモン			
	14	感覚器系	視覚器、聴覚器、その他の感覚			
15	感覚器系	視覚器、聴覚器、その他の感覚				

授業科目 (科目ID)	生理学		担当教員 (実務経験)	鈴木 裕子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内大学において教員として30年以上勤務。	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	医療人として土台となる体の構造や機能について学ぶ。				
到達目標	言語聴覚士の専門性の基本となる人体各部位の機能と働きについて理解し、医学的基礎知識を身につける。				
テキスト・参考図書等	(教)言語聴覚士のための解剖生理学 著者名:小林靖 発行所:医歯薬出版 (参)人体の構造と機能 著者名:内田さえ、佐伯由香、原田玲子 発行所:医歯薬出版 シンプル解剖生理学 著者名:河田光博、樋口隆 発行所:南江堂				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	90%	定期試験と小テスト・提出物を合わせて評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	5%			
	提出物	5%			
その他	%				
履修上の留意事項	生理学は臨床につながる重要な基礎科目です。常に復習を行うこと。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	からだの構造と機能の基本	細胞の構造と細胞膜の生理を学び、細胞の興奮と活動電位、運動単位、筋収縮の概略を理解する。また組織とその働きの基本を理解する。		
	2	からだの構造と機能の基本	細胞の構造と細胞膜の生理を学び、細胞の興奮と活動電位、運動単位、筋収縮の概略を理解する。また組織とその働きの基本を理解する。		
	3	循環	心臓の機能、血液循環、循環系の調節、血圧について理解する。		
	4	血液	血液の作用、血液の成分、血液の凝固、血液型について理解する。		
	5	免疫	白血球と免疫機構について学ぶ。		
	6	呼吸	呼吸調節、呼吸運動、肺気量と換気、血液ガスについて学ぶ。		
	7	嚥下、消化と吸収	消化器系における嚥下機構、消化、吸収の仕組みを知る。栄養の代謝を学ぶ。		
	8	嚥下、消化と吸収	消化器系における嚥下機構、消化、吸収の仕組みを知る。栄養の代謝を学ぶ。		
	9	体液調節と尿排泄	腎臓における体液調節、尿の生成と排泄を理解する。		
	10	生殖	男性生殖器と女性生殖器の働きを学ぶ。個体発生の概略を理解する。		
	11	内分泌	ホルモンの種類と働きを学ぶ。		
	12	感覚	感覚器系(視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚、皮膚感覚、深部感覚)の働きを学ぶ。		
	13	感覚	感覚器系(視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚、皮膚感覚、深部感覚)の働きを学ぶ。		
	14	神経	神経細胞の興奮と伝達を理解する。脳の基本構造を理解し、運動の調節に関わる中枢(脊髄、脳幹、小脳、大脳基底核)の概略と末梢の関係を学ぶ。		
15	神経	睡眠と覚醒、意識について理解しそれらと脳波の関連を知る。記憶と学習の仕組みを理解する。自律神経の作用を理解する。			

2023年度

専門学校北海道リハビリテーション大学校

言語聴覚学科

授業科目 (科目ID)	病理学		担当教員 (実務経験)	菅原 直毅 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 医学博士 国内外の大学で研究教育に30年以上従事。		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	病理学の領域を把握して、疾病の原因とその成り立ちを理解する。					
到達目標	専門用語で疾病の基本的な病変の知識を獲得し、理解する。					
テキスト・ 参考図書等	(教)なるほどなっとく!病理学 著:小林正伸 発行所:南山堂					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	講義終了後、国家試験形式で定期試験を実施する。 60点未満者は再試験を受けること。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	かなり難しい領域なので、集中して講義を受けること。パワーポイントで実施するので、配布資料は膨大になる。整理整頓を心がけること。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	病理学とは/疾病の原因	疾病発生には必ず原因がある。			
	2	病理学とは/疾病の原因	疾病発生には必ず原因がある。			
	3	細胞・細胞障害・再生	変性、萎縮、壊死、アポトーシスを理解する。			
	4	細胞・細胞障害・再生	変性、萎縮、壊死、アポトーシスを理解する。			
	5	循環障害	血液循環障害を理解する。			
	6	循環障害	血液循環障害を理解する。			
	7	代謝障害	円滑に進むことで恒常性は保たれる。			
	8	代謝障害	円滑に進むことで恒常性は保たれる。			
	9	炎症・免疫・免疫異常	炎症と免疫の関係を理解する			
	10	炎症・免疫・免疫異常	自然免疫と獲得免疫を理解する。			
	11	炎症・免疫・免疫異常	自然免疫と獲得免疫を理解する。			
	12	腫瘍	悪性腫瘍と良性腫瘍を理解する。			
	13	腫瘍	悪性腫瘍と良性腫瘍を理解する。			
	14	遺伝と先天異常	染色体異常疾患を理解する。			
15	遺伝と先天異常	遺伝形式を理解する。				

授業科目 (科目ID)	耳鼻咽喉科学		担当教員 (実務経験)	宮田 遼 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて10年以上、耳鼻科医として勤務。	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	10回	時間数 20時間
授業目的	言語聴覚士の業務に密接な耳鼻咽喉科疾患の、病態と診断、治療学について学び、必要な知識を身につける。				
到達目標	・耳科関連の疾患の特徴と治療について知る。・鼻科関連の疾患の特徴と治療について知る。・頭頸部外科領域の疾患の特徴と治療について知る。				
テキスト・ 参考図書等	(教)New Simple Step 耳鼻咽喉科 総合医学社				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験にて評価を行う		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	欠席せず、予習復習をすること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	耳科学	聴覚系の解剖、生理、検査		
	2	耳科学	手術、遺伝子診断		
	3	耳科学	疾患の症候・診断・治療		
	4	耳科学	前庭機能の基礎と臨床		
	5	鼻科学	鼻・副鼻腔の基礎と臨床①		
	6	鼻科学	鼻・副鼻腔の基礎と臨床②		
	7	喉頭科学	喉頭、音声の基礎と臨床		
	8	気管・食道科学	気管食道口腔咽喉頭の基礎と臨床		
	9	頭頸部腫瘍学	頭頸部腫瘍の基礎と非手術治療		
	10	頭頸部腫瘍学	頭頸部腫瘍の手術治療と術後機能		

授業科目 (科目ID)	呼吸発声発語系の構造・機能・病態		担当教員	飯島 治之	
			(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 医学博士を有し解剖学講師として10年以上従事	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	講義・演習		授業回数(1回90分)	10回	時間数 20時間
授業目的	正常な言葉の生成とその異常との関係を学び、それらに関連付けて、嚥下障害や音声障害といった病態の理解を深める。				
到達目標	・呼吸、発声、発語に必要な器官の構造・機能を学び書けるようになる。 ・発声、摂食嚥下に影響を及ぼす病態について学ぶ。				
テキスト・ 参考図書等	講師配布資料				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験にて評価を行う		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	毎回授業のボリュームがあるので、予習復習をしっかりとすること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	構音器官の基本構造1	鼻腔の構造と機能		
	2	構音器官の基本構造2	咽頭筋群とその運動 舌・口蓋筋群とその運動		
	3	喉頭の基本構造1	喉頭の枠組み、関節、筋、声帯、粘膜、神経と血管		
	4	喉頭の基本構造2	喉頭筋群とその機能 気管および気管支の構造と機能		
	5	呼吸器系の基本構造1	気管及び気管支の構造と機能		
	6	呼吸器系の基本構造2	肺の構造と機能		
	7	呼吸運動1	胸膜と呼吸運動		
	8	呼吸運動2	呼吸機能検査		
	9	呼吸器系の病態1	発声、摂食嚥下に影響を及ぼす呼吸器疾患について		
10	呼吸器系の病態2	誤嚥性肺炎の機序と治療			

授業科目 (科目ID)	聴覚系の構造・機能・病態		担当教員 (実務経験)	飯島 治之 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 医学博士を有し解剖学講師として10年以上従事		
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	10回	時間数	20時間
授業目的	聴覚機能は人間のコミュニケーション能力に深くかかわっている。正常聴覚系の構造・機能について基本的なことを学び、関連する障害について理解を深める。					
到達目標	・聴覚系の正常構造をかけるようになる。・関連する病態について学び、難聴の機序について説明できるようになる。					
テキスト・ 参考図書等	教科書は特に指定しない。適宜資料を配布する。 ※宮田先生担当分 (教)New Simple Step 耳鼻咽喉科 総合医学社					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験にて評価を行う			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	欠席せず、予習復習をすること。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	聴覚の概説	聴覚の概説			
	2	聴覚の概説	聴覚の概説			
	3	聴覚の解剖	聴覚器の比較解剖 外耳および中耳			
	4	聴覚の解剖	内耳(聴覚器) 内耳(平衡感覚器)			
	5	聴覚の解剖	聴覚路・聴覚中枢 平衡感覚路と平衡感覚中枢			
	6	聴覚の解剖	平衡覚と姿勢制御 聴覚器の発生 聴覚器の微細構造			
	7	聴覚系の病態と機能	外耳疾患・中耳疾患			
	8	聴覚系の病態と機能	内耳疾患・人工内耳			
	9	聴覚系の病態と機能	耳鳴り			
	10	聴覚系の病態と機能	後迷路性・中枢疾患			

授業科目 (科目ID)	神経系の構造・機能・病態		担当教員 (実務経験)	飯島 治之 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 医学博士を有し解剖学講師として10年以上従事		
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	10回	時間数	20時間
授業目的	脳・神経系の機能解剖を学ぶ。					
到達目標	脳・神経系の機能解剖に関連付けて、神経症候学、高次脳機能障害といった病態を理解する。					
テキスト・ 参考図書等	(教)ぜんぶわかる脳の事典 著者名: 坂井建雄、久光正 発行所: 成美堂出版					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験にて評価を行う			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	欠席せず、予習復習をすること。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	神経系の概要と基本構造 大脳の外形	神経伝達、イオンチャンネル、シナプス 大脳皮質の構造、白質			
	2	大脳の内部構造 大脳の機能中枢	海馬、扁桃体 大脳辺縁系の機能			
	3	間脳(視床と視床下部) 脳幹	大脳基底核の構造と機能 視床、自律神経系			
	4	小脳と脊髄 脳膜と脳室	延髄、橋、中脳、脳神経 脳幹病変			
	5	伝導路(下行路)	伝導路(下行路)			
	6	伝導路(上行路)	伝導路(上行路)			
	7	脳の血管系	脳の動脈・静脈、脊髄の血流支配			
	8	まとめ	神経生理、脳波、脳磁図			
	9	画像診断①	CT、MRI、fMRI、NIRS			
	10	画像診断②	SPECT、アンギオ、エコー			
	11					
	12					
	13					
	14					
15						

授業科目 (科目ID)	生涯発達心理学		担当教員	山縣 豊樹	
			(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	市内大学大学院在籍。文学修士
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	20回	時間数 40時間
授業目的	本講義では、発達にかんする研究などを紹介し、ともにこのテーマについて考察することを目的とする。発達とは、「生まれてから大人になるまで」の過程だけでなく、母体に宿ってから死ぬまでの、まさに生涯をつうじた変化であると考えられることができる。この壮大な変化の過程に、研究の視点からふれてみたい。				
到達目標	発達過程にかんする研究知見に触れることで、発達にかかわる諸問題や人間の「こころ」について、自身で考えを深める能力・技術を養う。				
テキスト・参考図書等	【テキスト】なし。 【参考図書】ベーシック発達心理学 著者:開一夫 齋藤慈子 編 発行所:東京大学出版 など(講義内容に沿って、適宜、関連書籍を紹介する予定)。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	90%	定期試験・小テストを合わせて評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	10%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の留意事項	基本的に予習は必要としない。ただし、受講に際する注意事項として、以下に記載した各回の履修内容は、進度等に応じて適宜変更を加える可能性があることを伝えておく。したがって、それぞれの講義ごとに内容を覚えようとするだけでなく、全体的な「流れ」をつかむように意識して受講してもらいたい。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	生涯発達心理学について	本講義のガイダンスを行なうとともに、導入として、生涯発達心理学における基礎的な考え方を概説する。		
	2	生涯発達心理学を学ぶための基礎	生涯発達心理学を学ぶ上で基礎となる知識(心理学についてや、その研究手法、遺伝・環境についての議論、学習の理論、など)を紹介していく。		
	3	生涯発達心理学を学ぶための基礎	生涯発達心理学を学ぶ上で基礎となる知識(心理学についてや、その研究手法、遺伝・環境についての議論、学習の理論、など)を紹介していく。		
	4	生涯発達心理学を学ぶための基礎	生涯発達心理学を学ぶ上で基礎となる知識(心理学についてや、その研究手法、遺伝・環境についての議論、学習の理論、など)を紹介していく。		
	5	生涯発達心理学を学ぶための基礎	生涯発達心理学を学ぶ上で基礎となる知識(心理学についてや、その研究手法、遺伝・環境についての議論、学習の理論、など)を紹介していく。		
	6	生涯発達心理学を学ぶための基礎	生涯発達心理学を学ぶ上で基礎となる知識(心理学についてや、その研究手法、遺伝・環境についての議論、学習の理論、など)を紹介していく。		
	7	生涯発達心理学を学ぶための基礎	生涯発達心理学を学ぶ上で基礎となる知識(心理学についてや、その研究手法、遺伝・環境についての議論、学習の理論、など)を紹介していく。		
	8	生涯発達心理学を学ぶための基礎	生涯発達心理学を学ぶ上で基礎となる知識(心理学についてや、その研究手法、遺伝・環境についての議論、学習の理論、など)を紹介していく。		
	9	生涯発達という発達観、および成人期・老年期	生涯発達という考え方を復習・補足し、あわせて、成人期以降の変化やその特徴をまず概観する。		
	10	生涯発達という発達観、および成人期・老年期	生涯発達という考え方を復習・補足し、あわせて、成人期以降の変化やその特徴をまず概観する。		
	11	胎児期・周産期・乳幼児期・児童期	胎児期～児童期までの変化と各段階の特徴について、いくつかの重要なトピック(運動、感覚、認知、愛着、社会性、など)ごとに、比較的詳細に紹介する。		
	12	胎児期・周産期・乳幼児期・児童期	胎児期～児童期までの変化と各段階の特徴について、いくつかの重要なトピック(運動、感覚、認知、愛着、社会性、など)ごとに、比較的詳細に紹介する。		
	13	胎児期・周産期・乳幼児期・児童期	胎児期～児童期までの変化と各段階の特徴について、いくつかの重要なトピック(運動、感覚、認知、愛着、社会性、など)ごとに、比較的詳細に紹介する。		
	14	胎児期・周産期・乳幼児期・児童期	胎児期～児童期までの変化と各段階の特徴について、いくつかの重要なトピック(運動、感覚、認知、愛着、社会性、など)ごとに、比較的詳細に紹介する。		
15	胎児期・周産期・乳幼児期・児童期	胎児期～児童期までの変化と各段階の特徴について、いくつかの重要なトピック(運動、感覚、認知、愛着、社会性、など)ごとに、比較的詳細に紹介する。			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	胎児期・周産期・乳幼児期・児童期	胎児期～児童期までの変化と各段階の特徴について、いくつかの重要なトピック(運動, 感覚, 認知, 愛着, 社会性, など)ごとに, 比較的詳細に紹介する。
	17	胎児期・周産期・乳幼児期・児童期	胎児期～児童期までの変化と各段階の特徴について、いくつかの重要なトピック(運動, 感覚, 認知, 愛着, 社会性, など)ごとに, 比較的詳細に紹介する。
	18	胎児期・周産期・乳幼児期・児童期	胎児期～児童期までの変化と各段階の特徴について、いくつかの重要なトピック(運動, 感覚, 認知, 愛着, 社会性, など)ごとに, 比較的詳細に紹介する。
	19	胎児期・周産期・乳幼児期・児童期	胎児期～児童期までの変化と各段階の特徴について、いくつかの重要なトピック(運動, 感覚, 認知, 愛着, 社会性, など)ごとに, 比較的詳細に紹介する。
	20	まとめ(および, 補足・発展)	各発達期について確認・復習する。必要や状況に応じて, 補足的あるいは発展的な内容を扱う。

授業科目 (科目ID)	学習心理学		担当教員	笠井 有利子		
			(実務経験)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	文学博士。市内大学等にて心理学の教育・研究に8年間従事。
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	言語聴覚士国家試験出題基準にある「認知・学習心理学」の内容範囲を、本科目「学習心理学」と別科目「認知心理学」とで連続的に学ぶ。					
到達目標	人間の心的機能には、大きく分けて知・情・意の三つの側面がある。その中の知(cognition(認知))の側面について、本「学習心理学」と「認知心理学」の両科目で学ぶ。すなわち、感覚、知覚、記憶、学習、思考、言語などの認知機能の特徴とメカニズムについて学ぶ。					
テキスト・参考図書等	参考図書:『マイヤーズ心理学』 著者名:D.マイヤーズ 発行所:西村書店 参考図書:『ヒルガードの心理学・第16版』 著者名:S.ノーレン・ホークセマ、他 発行所:金剛出版					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	70%	定期試験と小テストを合わせて評価を行う。			
	レポート	%				
	小テスト	30%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	心理学とは、人間の心理と行動のメカニズムを解明し、合理的に説明しようとする科学である。その知見を学ぶ。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	認知心理学とは、認知とは、学習とは	心理学の中における認知心理学の位置づけ			
	2	認知のスキーマ依存性	トップダウン処理とボトムアップ処理:認知のスキーマ依存性			
	3	nature - nurture 問題	nature or nurture? 遺伝か環境か?			
	4	認知機能の生理的基盤	モジュール性:脳における機能の特殊化			
	5	認知機能の生理的基盤	神経系の全体像			
	6	感覚	感覚のしくみ:視覚系他、五感のしくみ			
	7	感覚	感覚神経系			
	8	心理と物理の関係	心理物理学			
	9	知覚	知覚のしくみ:知覚的体制化、要素の組織化			
	10	知覚	視知覚			
	11	知覚	音声知覚、音楽知覚			
	12	学習	学習と発達			
	13	学習	古典的条件付け			
	14	学習	オペラント条件付け			
15	学習	生物学的特性と認知と学習、観察による学習				

授業科目 (科目ID)	言語学 I	担当教員 (実務経験)	中村 真衣佳 日本語教師養成講座「言語学概論」「日中対照言語学」担当、市内私立大学にて「日本語表現 I・II」担当、本校にて「言語学 I・II」担当		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	言語聴覚士に不可欠な言語学的知識・分析技術の定着を図る				
到達目標	言語学に関する基礎的知識を用い、言語聴覚士として必要な分析ができる				
テキスト・参考図書等	大森孝一他編(2018)『言語聴覚士テキスト第3版』医歯薬出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	定期試験、小テスト(3回実施の予定)、演習活動における練習問題への回答数と合わせて評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	30%			
	提出物	%			
	その他	10%			
履修上の留意事項	授業進行状況によって内容変更がありえる。配布資料も併用。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	言語学とは	言語学が取り扱う範囲、言語学の目的、言語学の歴史(概要)		
	2	言語学の基本的な性質(1)	パロールとラング、通時態と共時態		
	3	言語学の基本的な性質(2)	記号表現と記号内容、言語記号の恣意性と有契性		
	4	言語学の基本的な性質(3)	二重分節、線状性、統合的関係と範列的關係		
	5	第1回～第4回のまとめと復習	言語学の範囲、ソジュールの概念、その他基本的概念		
	6	形態論(1)	形態素、無標形と有標形、自由形態素と拘束形態素		
	7	形態論(2)	形態論的プロセス(モノとしての形態素:複合、接辞、重複)		
	8	形態論(3)	形態論的プロセス(ルールとしての形態素:母音変換、子音変換、短縮ルール:混成語、刈り込み、頭字語)		
	9	形態論(4)	補充法と転換、異形態、連濁、派生文法と日本語文法		
	10	第6回～第9回のまとめと復習	形態論の基礎概念と形態的プロセスなど		
	11	統語論(1)	単文・節、複文、重文、従属節、主節		
	12	統語論(2)	基本語順、項、付加語句、n項動詞、品詞		
	13	統語論(3)	ボイス(受け身・使役・間接受身、希望文・難易文・可能文・二重主語文)		
	14	統語論(4)	格助詞(前接語、名詞句)、テンスとアスペクト		
15	第11回～第14回のまとめと復習	統語論の基礎概念、文の種類、品詞、ボイス、テンス・アスペクト			